

工場見学会のお知らせ

おかげさまで、ご好評につき、今般、ジーテクト東京ラボ(GTL)におきまして、株主様向けの見学会を開催いたします。皆様のご応募をお待ちしております。

開催概要

見学場所：ジーテクト東京ラボ(GTL) (東京都羽村市)

GTLは、これまでとは一線を画した研究環境をもった先進技術開発の中核拠点として、次世代の軽量高剛性ボディの開発を行っています。



集合・解散：JR福生駅 改札前(GTLまで送迎いたします)。
※お車等での直接のご来場はご遠慮ください。

開催日程：2019年10月1日(火) 13:30集合(予定)

内容：概要説明の後、徒歩にて構内をご見学いただく予定です。

対象者：2019年3月末時点の当社株主様

募集人数：20名

参加費：無料(但し、集合・解散場所までの交通費や宿泊費等は各自のご負担とさせていただきます。)

応募要領

応募方法：同封の「株主様アンケート」に記載の「工場見学会へ出席をご希望される株主様」の欄に必要事項をご記入の上、ご返送ください。

応募締切：2019年7月31日消印有効とさせていただきます。

当選発表：応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。当選発表につきましては、9月上旬に発送予定の当選通知をもって代えさせていただきます。その際、当日の運営等詳細もあわせてご連絡いたします。

※ご応募により当社が取得する個人情報、本見学会を実施する上で必要な限りにおいてのみ使用いたします。

お問い合わせ先

株式会社ジーテクト 工場見学会係

電話番号 048-646-3404 9:00~17:00(土、日、当社休日を除く)

株式会社ジーテクト

証券コード：5970



第8期
株主通信

2018年4月1日~2019年3月31日



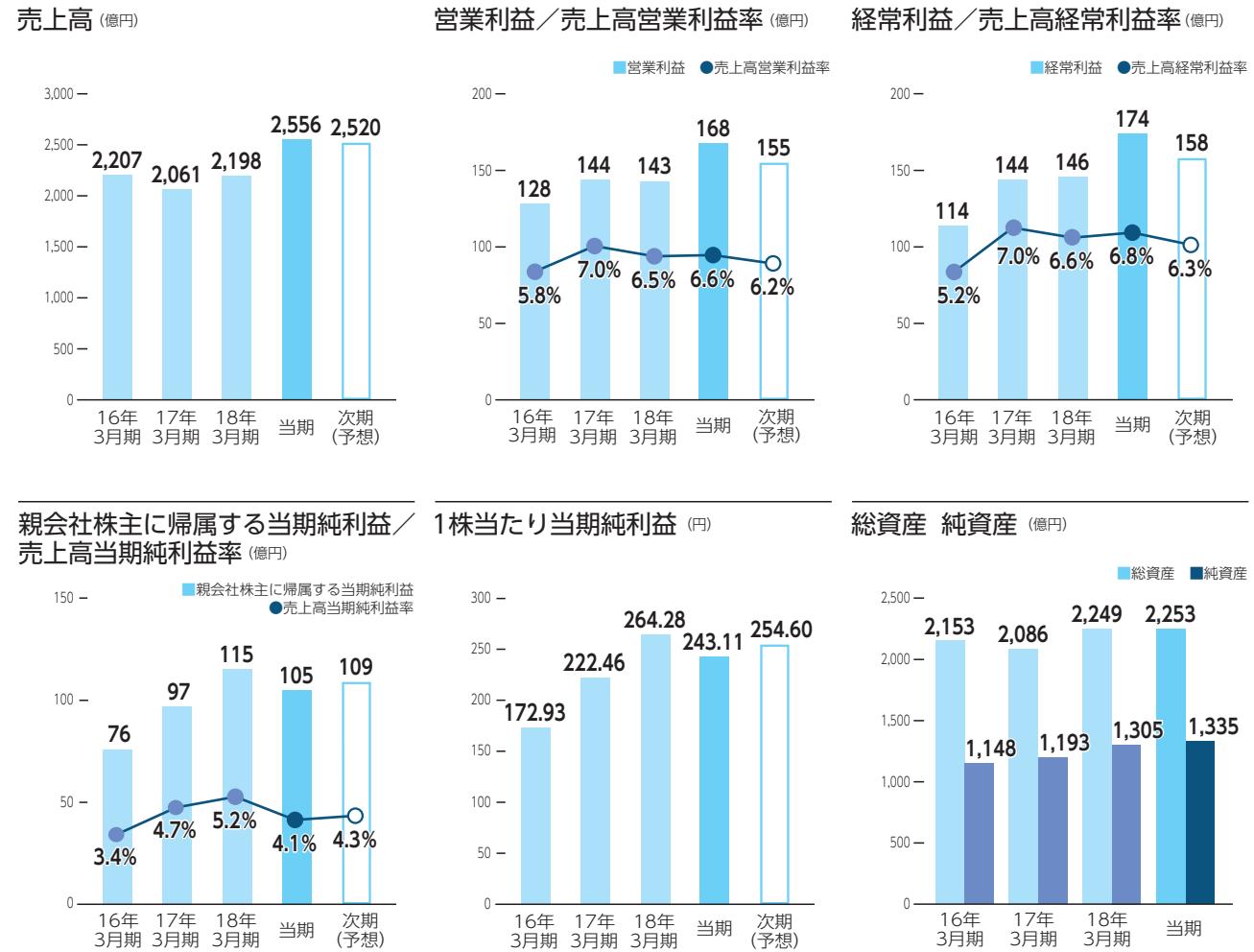
株式会社ジーテクト

本社 〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-20

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

当期業績は、売上高・営業利益・経常利益ともに過去最高を更新しました。日本・中国・アジアにおける増産に伴う量産売上の増加に加え、日本・欧州の型設備売上が寄与し、売上高は255,637百万円(前年同期比16.3%増)となりました。利益につきましては、日本・中国・アジアの増収効果等により、営業利益は16,813百万円(前年同期比17.8%増)となりました。経常利益は、17,423百万円(前年同期比19.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に実施した政策保有株式売却の影響がなくなったことに加え、北米子会社Jefferson Southern Corporationの収益性低下に伴う減損損失の計上等により、10,470百万円(前年同期比9.2%減)となり、ROEは8.7%となりました。



Shape the Future

～人とクルマと地球の未来の姿をかたちづくる～

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

現在、自動車業界は、コネクテッド(繋がる)、オートノマス(自動運転)、シェアリング(共同所有)、エレクトリック(電動化)の「CASE」と呼ばれる急激な変革期にあり、中でも電動化がさらなる車体の軽量化を求めています。

この変化を的確に捉え、成長を続けていくためには、当社で働くすべての人が活躍し、成長できる企業へと体質を強化し、時代の変化に対応していく必要があると考えております。

当社では、「Shape the Future」をコーポレートスローガンに掲げています。このスローガンの下、既存の価値観にとらわれず、企業と人がともに成長できる環境をつくり、開発力・技術力・人財リソースを最大限活用して、次世代の革新的な軽量高剛性ボディを創造し、人とクルマと地球の未来の姿をかたちづかっていきます。

これからも、持続的な成長と進化を遂げるべく、時代の先を読む攻めの経営とイノベーションにより、力強く経営の舵取りを行ってまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
高尾 直宏

2019年6月

売上高・営業利益・経常利益ともに過去最高を更新。 ジテクトは、未来を見据えた 持続的な成長と進化を加速させます。

Q 当期(2019年3月期)を振り返り、営業状況について
総括願います。

A グローバルな生産台数の増加や積極的
な営業活動によって獲得した多くの新
機種立ち上げで、売上高、営業利益、
経常利益が過去最高を更新。成長戦略
に掲げる「売上高3,000億円」「営業
利益200億円」の達成に向け、着実に
歩みを進めています。

当期については、グローバルな生産台数の増加や、数年間の積極的な販売活動の成果として、新機種の立ち上げが相次ぎ、売上高、営業利益、経常利益が過去最高を更新しました。地域別に振り返ると、売上高は、全地域で増収となり、特に中国・欧州地域では20%を超える大幅な増収となりました。営業利益は、北米で雇用情勢の逼迫などにより減益となったものの、中国・アジア地域が健闘し、増益となりました。

得意先別の売上高については、主要得意先のホンダ様の順調な拡大に加え、ホンダ様以外の他社販売についても好調でした。特にトヨタ様においては、グローバルな営業努力が功を奏し、売上高は、前期より倍増し、2桁のシェアへ拡大しました。さらに、欧州高級車メーカー

との取引も拡大しており、ジャガー・ランドローバー様、BMW様の売上高も拡大しております。

当社が成長戦略に掲げる「売上高3,000億円」「営業利益200億円」の達成に向けて、当期は着実に、そして大きく前進することができました。

Q 自動車業界は、100年に一度の大変革期と言われているようですが、さらなる受注拡大に向けた取り組みをお聞かせください。

A 持続的な成長と進化に向け、中長期的な視点で成長戦略を実行していきます。

100年に一度の大変革期において、熾烈な競争に打ち勝ち、確実に受注拡大を図っていくためには、カーメーカーに対して、より軽く、より強いボディを提案するためのさらなる技術力の向上、そして、その技術力を武器にした世界の大手カーメーカーとの取引拡大による、ジテクトのブランド力向上が必要だと考えています。

まず、技術力の向上についてですが、これからの自動車部品サプライヤーにとって技術力の進化は必須です。当社も昨年から本格的な研究施設「ジテクト東京ラボ(GTL)」を稼働させるなど、技術力・開発力のさらなる向上に取り組んでいます。そして、このGTLで生み出さ

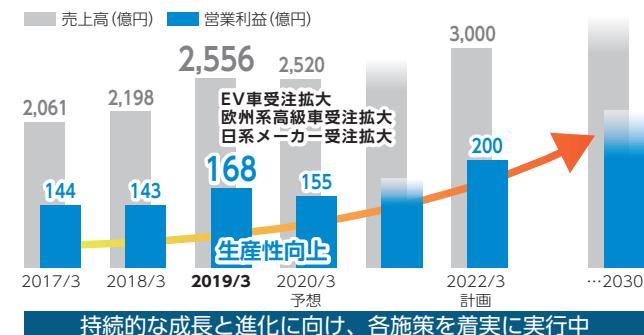
れた次世代の軽量高剛性ボディを、これまで以上にカーメーカーに売り込んでいくため、当社はこの度、多数の開発実績のある海外のESP (Engineering Service Provider) とコンサルティング契約を結びました。システム開発やモジュール設計を得意とするこのESPを活用して、車体開発に特化したエンジニアリング技術を手に入れることで、車体開発の初期段階から参入することが可能となります。高いレベルでカーメーカーの開発パートナーとなり、車体開発初期から生産まで一気通貫で車づくりを担うこと、それこそが、ジテクトが目指すボディ専門メーカーの姿です。

引き続き、より軽く、より強い次世代の軽量高剛性ボディの提案力を高め、これをアドバンテージに、受注拡大を強力に推進していく考えです。

そして、受注拡大に向けてもうひとつ重要なのが、ジテクトのブランド力向上です。すでに、ジャガー・ランドローバー様、BMW様などとの取引が拡大していますが、特に、走りや車体の剛性に高い性能を求めるBMW様向けに、本格的な車体部品を供給することは、我々ジテクトグループの技術力と品質が、ヨーロッパでも認められた証であると考えています。今後も軽量高剛性技術を武器に、これら大手カーメーカーの高い品質基準に応えていくことで、当社のブランド力を磨いていきます。

そして、この「ジテクトブランド」が、EV化時代に向けて、早くも新たなビジネスにつながり始めており、日本、そして中国でEV専用車向けの部品を受注しました。さらに、これらジテクトの技術力、ブランド

力を武器に販売活動を強化した結果、ホンダ様はもちろん、それ以外のカーメーカーとの取引も大きく拡大しております。この他社販売の拡大は、成長戦略の柱と考えています。当社がこの大変革期を乗り越え、これからも持続的な成長と進化を続けるためには、高い技術力をベースにした革新的な提案を行い、世界中のカーメーカーから「選ばれる企業」になることが重要です。その結果、経営目標の達成はもちろん、経営基盤の安定化により、その先も確実に拡大できるものと確信しています。



Q 次期(2020年3月期)の見通しと重点施策についてお聞かせください。

A ハードとソフトの両面で改革を推進し、あらゆる「質」を高め、企業と人がともに成長できる環境をつくりあげます。

次期の見通しについてですが、2020年3月期は、主要得意先の減産や、モデルサイクルの端境期にあたるこ

となどもあり、若干の減収・減益を予想しております。しかしながら、当社は、先を見据えたより強固な企業基盤構築のために、積極的に施策を打ちます。

100年に一度の大変革期中、持続的な成長と進化を確かなものにしていくためには、「量の成長」を凌駕する「質の成長」が重要だと考えており、現在、生産現場を始めとしたハード面の改革に加え、組織・人事といったソフト面での改革を推し進めています。

まず、ハード面での改革では、「生産性向上プロジェクト」を立ち上げ、生産体質の改革に取り組んでいます。日本では、生産年齢人口が減少し、中国やアメリカでは賃金が上昇するなど、生産現場における自動化・無人化による体質強化がグローバルな課題になっています。このような中、溶接ラインの省人化を進めてきましたが、今般、カメラによる自動検査工程の信頼性を担保できたことから、完全な無人化ラインを実現しました。

中国では、AGV (Automated Guided Vehicle) と呼ばれる無人搬送車が部品を指定された場所へ正確に届け、構内物流の無人化を実現させております。

近い将来には、無人化ラインやカメラ検査を組み合わせることにより、プレスから溶接、品質検査から出荷まで、完全無人化することで、より高効率で高品質な生産体質の実現を目指しています。

一方、ソフト面の改革では、RPA (Robotic Process Automation) による間接部門の生産性向上を図っています。すでに中国の拠点で購買業務において導入がなされたこのRPAは、ロボットが定型作業を人間に代わって

行い、従業員はより付加価値の高い仕事に専念できるようになりました。今後、このような取り組みを、グローバルに展開し、無駄のない、より生産性の高い仕事に変えていく計画です。

そして、現在、最も重要な取り組みのひとつと位置付けているのは、ダイバーシティ (多様性) です。自動車業界の大変革期を乗り越えるためには、当社で働くすべての人がそれぞれ持っている多様な経験、視点、感性、スキル等を互いに尊重し合うことで、より大きな力を生み出すことができる集団となることが不可欠だと考えています。そのため、今回、多様性を経営レベルから実践



するため、当社として初の女性取締役を社外から迎えることとし、第8回定時株主総会にて選任いただく予定です。

また同時に、女性管理職の積極的な登用や、「ダイバーシティ推進委員会」を立ち上げるなど、多様性を加速させるための基盤づくりを行い、持続的な成長と進化に向けて、2019年を当社にとっての「多様性元年」と位置付け、これまで以上に強力で推進してまいりたいと考えております。

さらに、将来的な企業体質を総合的に向上させるため、現在「2030年ビジョン」プロジェクトを立ち上げ、10年後の姿のありたき姿を構築中です。新たな時代に向け、当社が向かうのは「情熱と革新を融合させ、人とクルマのより良い未来をかたちづくる」です。今後はこのステートメントの下、企業体質のさらなる向上に取り組み、10年後もその先も、持続的な成長と進化を遂げる強い企業になる覚悟です。具体的な戦略発表まで、もう少しお待ちください。



Q 最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします。

A 利益成長を反映した増配の維持を優先課題とし、安定的・継続的な株主還元を実施してまいります。

引き続き、世界情勢、世界経済は不安要素が多く、厳しい経営環境が続くものと思います。しかしながら、経営を預かる者として、どのような環境の中にあっても、常に企業としての「質」を高め、着実に成長し続ける会社になりたいと考えています。

当期の期末配当は、利益成長を反映した増配の維持を優先課題とし、当初予想から2円増配の1株当たり24円とさせていただきます。これにより年間配当額は、中間配当22円と合わせて46円（前期比7円増配）となる予定です。また、次期の配当は、10期連続の増配となる、年間48円の配当を計画しています。今後も増配を維持できるよう、さらなる経営努力を重ねてまいります。

なお、今回の第8回定時株主総会は、より多くの株主様にお越しいただけるよう、会場を埼玉県から東京都心に移して開催いたします。

株主の皆様におかれましては、ぜひこの株主通信を通じてご期待・ご関心をより高められ、当社の株主総会にご来場賜りますようお願い申し上げます。

成長戦略の進捗状況 ～中期・長期戦略～

当社は、2022年3月期を目処に、売上高3,000億円、営業利益200億円の達成を目標とする成長戦略を掲げ、取り組んでいます。

以下では、その中期的な戦略と、さらにその先の2030年を見据えた長期的な戦略についてご紹介します。

中期成長戦略

スロバキア新工場完成 ～「ジーテクトブランド」を欧州から世界へ～

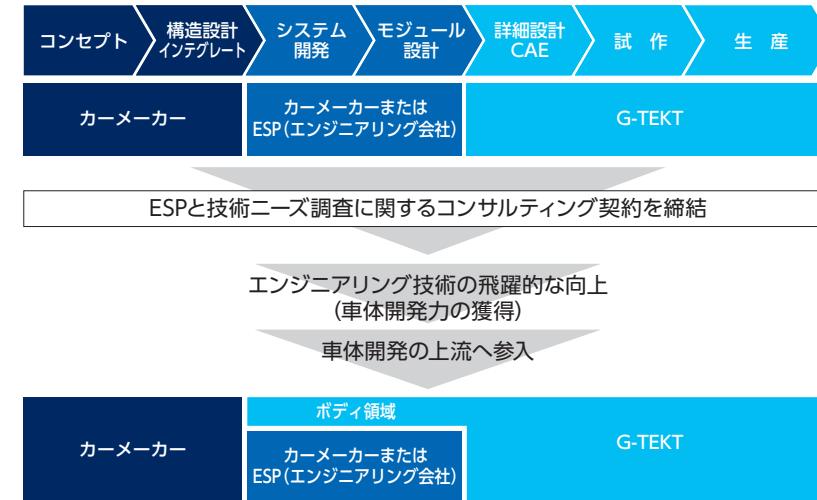
欧州大陸初となるスロバキアの生産拠点G-TEKT Slovakia, s.r.o. (G-TES)社の工場が、4月に完成しました。G-TES社は、来るべきEV化時代に向け、今後のジーテクトグループをけん引する象徴的な工場として、アルミと鋼板のボディ両方が生産可能な最新鋭の設備と技術を投入し、ジャガー・ランドローバー様やBMW様向けに今夏、生産を開始します。自動車産業の集積地である立地を活かし、近隣諸国のカーメーカーとの取引を拡大していくとともに、欧州高級車メーカーの求める様々なニーズに応えることで、ジーテクトのブランド力を高め、欧州だけでなく、世界中で軽量高剛性ボディのさらなる受注拡大を目指します。



撮影：2019年5月

長期成長戦略

次世代軽量高剛性ボディの開発力強化 ～車体開発初期から生産まで担うボディ専門メーカーを目指す～



自動車の開発は、そのコンセプト立案から生産まで、様々なプロセスが存在します。カーメーカーは、概ねコンセプトからモジュール設計あたりまでを行い、詳細設計や試作品の製造以降を部品サプライヤーが担っています。

一方、自動車開発で先行する欧州系カーメーカーに多く見られるのは、システム開発やモジュール設計を外部に委託するという分業スタイルです。

そこで注目されるのがESP (Engineering Service Provider) の存在です。

当社はこの度、多数の開発実績のある海外のESPとコンサルティング契約を結びました。

このESPが持つエンジニアリング技術を活用することで、車体開発力を新たに身に付け、車体開発初期から生産まで一気通貫で車づくりを担ってまいります。

[2030年ビジョン]ステートメント ～情熱と革新を融合させ、人とクルマのより良い未来をかたちづくる～

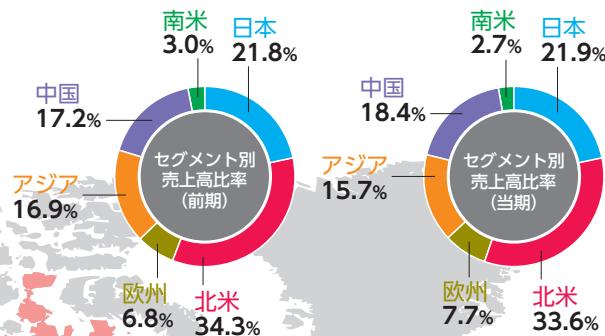
今般、長期的に当社が目指す方向性を表現したステートメントとして、「情熱と革新を融合させ、人とクルマのより良い未来をかたちづくる」を掲げました。

企業が将来に亘って持続的に成長するには、何より「人財」が重要です。また、大変革期を生き残るには、「技術革新」が欠かせません。そして、その人財と革新的な技術が最大限活かせる土壌づくりとして、企業体質を一から見直す「構造変革」も必要です。さらには、ESGを中心とした企業の「社会的責任」を果たすことも重要です。

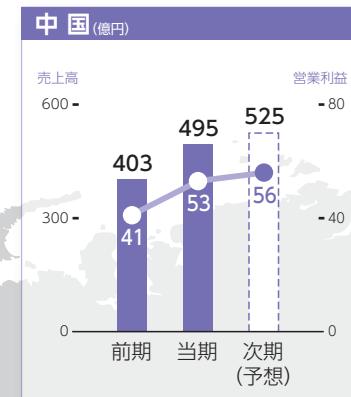
このそれぞれの要素を誰もが共感できる形で言葉にしたのが、2030年ビジョンのステートメントです。このステートメントの下、企業体質のさらなる向上に取り組み、持続的な成長と進化を目指します。



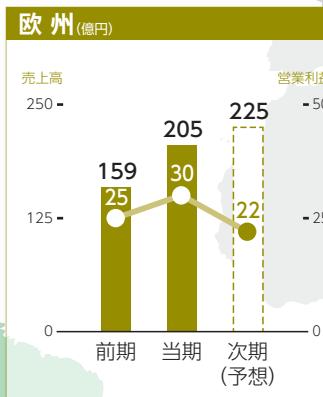
グローバル競争に打ち勝つため、全世界対応の企業規模と展開力を実現。競争力のさらなる向上を図ります。



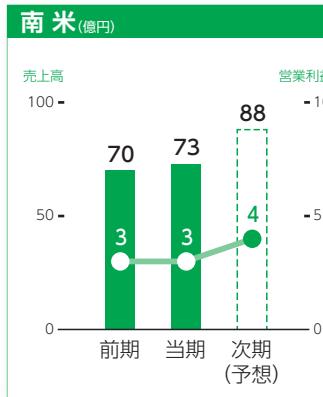
売上高は、型設備売上の増加等により、90,202百万円（前年同期比12.0%増）となりました。営業利益は、雇用状況の逼迫による労務費の増加等により、1,529百万円（前年同期比13.0%減）となりました。



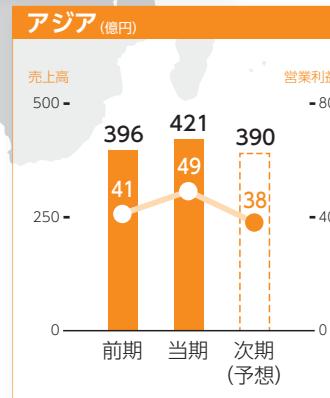
売上高は、量産売上の増加等により、49,481百万円（前年同期比22.7%増）となりました。営業利益は、増収効果等により、5,298百万円（前年同期比28.1%増）となりました。



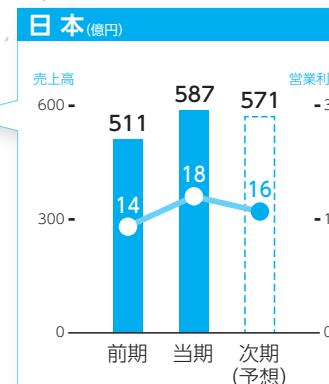
売上高は、トヨタ向けの型設備売上の増加等により、20,523百万円（前年同期比29.5%増）となりました。営業利益は、増収効果等により、3,022百万円（前年同期比18.9%増）となりました。



売上高は、量産売上の増加等により、7,264百万円（前年同期比3.9%増）となりました。営業利益は、303百万円（前年同期比1.9%増）となりました。

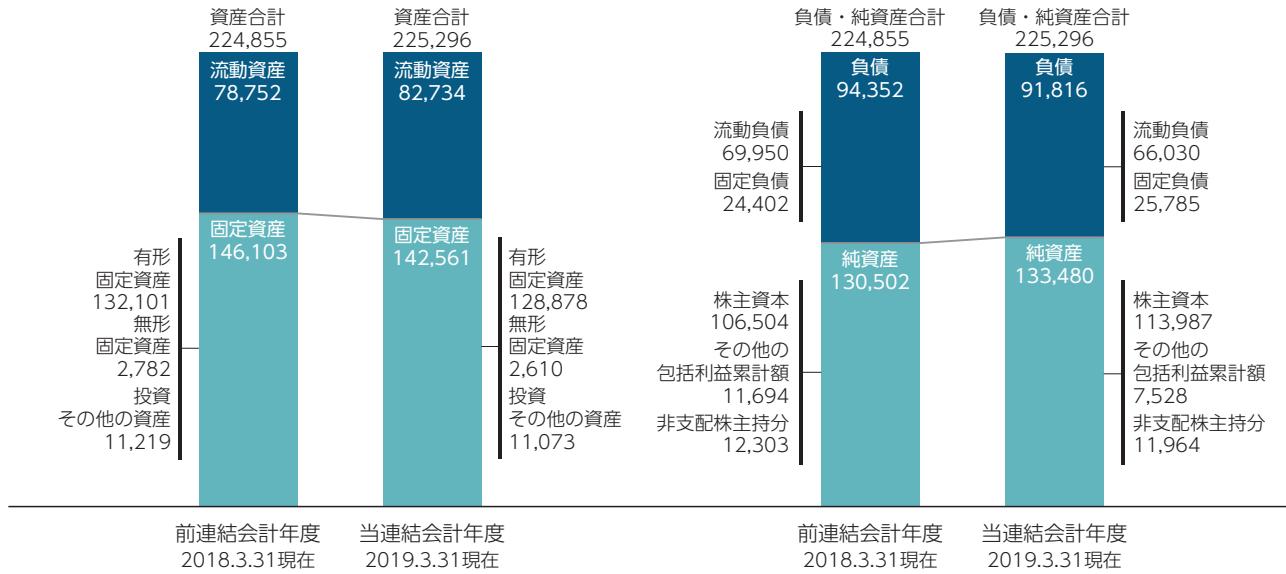


売上高は、タイにおける量産売上の増加等により、42,061百万円（前年同期比6.3%増）となりました。営業利益は、増収効果等により、4,897百万円（前年同期比19.4%増）となりました。

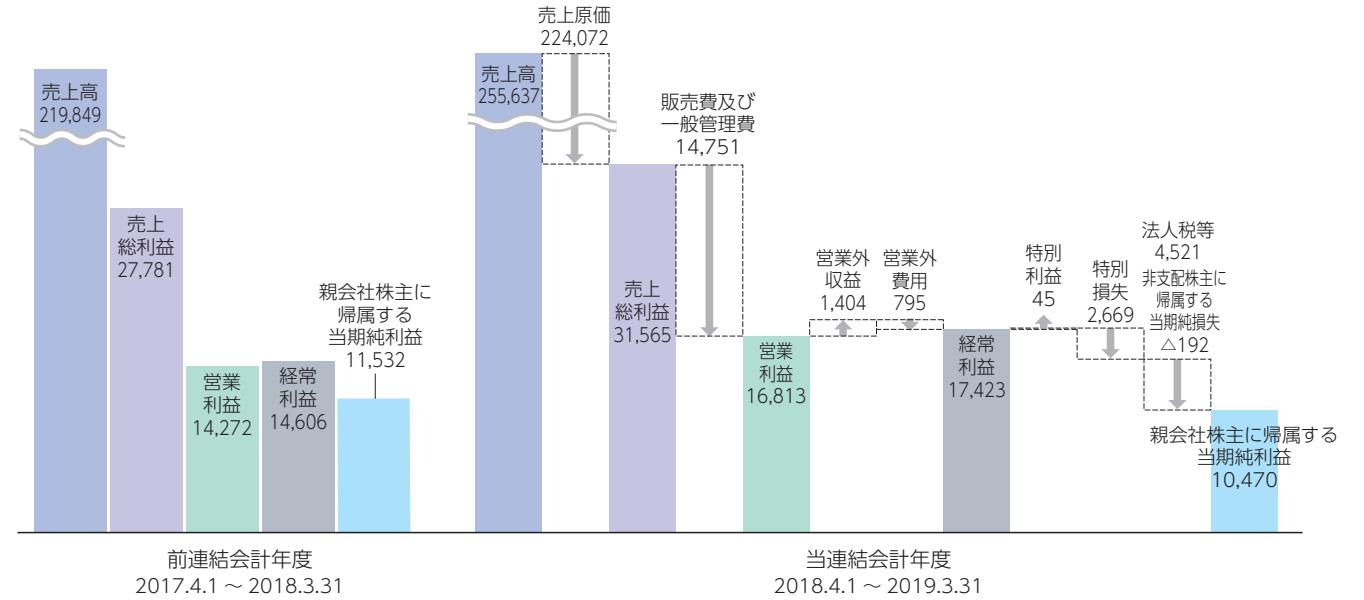


売上高は、量産売上及び型設備売上の増加等により、58,666百万円（前年同期比14.8%増）となりました。営業利益は、増収効果等により1,795百万円（前年同期比24.2%増）となりました。

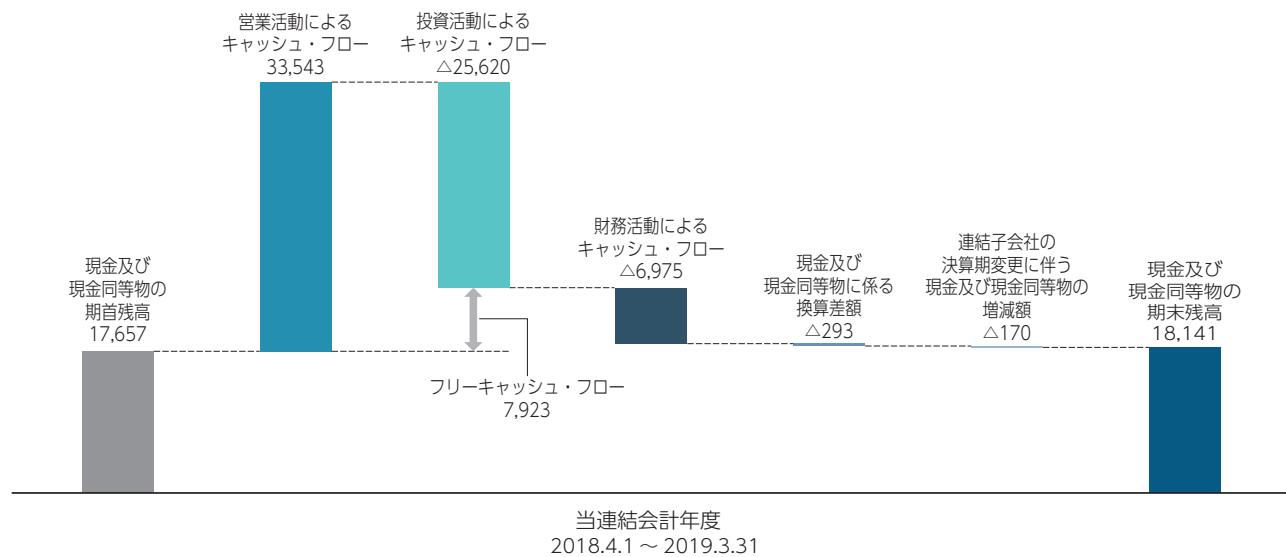
連結貸借対照表 (要旨) (百万円)



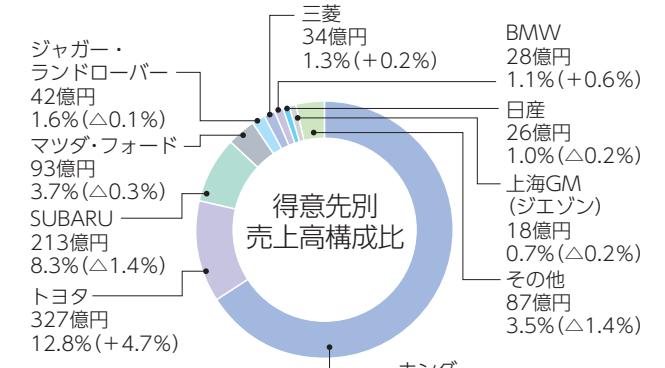
連結損益計算書 (要旨) (百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) (百万円)



財務のポイント



※当社は2014年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っているため、2010年度から2013年度までの1株当たり配当金は株式分割考慮後の数値を記載しています。

当期の業績を踏まえ、期末配当を24円とし、年間配当46円とする予定です。なお、2019年度は、中間配当24円、期末配当24円の年間配当48円とさせていただきます。

※()内の数値は、対前年同期の構成比増減を表しています。

ホンダ様は増産に伴い、売上高が増加しました。トヨタ様は、日本を含めグローバルな営業努力が功を奏して売上拡大を続け、2桁のシェアとなりました。BMW様は、欧州に続き北米での生産が開始され、取引が拡大しています。

会社概要 (2019年4月1日現在)	
社名	株式会社ジーテクト
創業	1947年4月1日
設立	1953年11月4日
資本金	4,656,227,715円
代表取締役社長	高尾直宏
事業内容	車体部品、トランスミッション部品の製造販売、金型・溶接設備等の製作販売
拠点	国内9拠点、アメリカ5拠点、カナダ1拠点、メキシコ2拠点、ブラジル1拠点、イギリス4拠点、ドイツ1拠点、スロバキア1拠点、中国6拠点、インド1拠点、タイ4拠点、インドネシア1拠点

ホームページのご案内



<https://www.g-tekt.jp/>

決算情報やプレスリリースなどIR情報につきましては、当社ホームページからご覧いただけます。



役員 (2019年4月1日現在)	
代表取締役会長 取締役会長	菊池俊嗣
代表取締役社長 社長執行役員	高尾直宏
取締役	米谷正孝
取締役	洞秀明
取締役 専務執行役員	石川美津男 海外事業本部長
取締役	中西孝裕
取締役 専務執行役員	吉沢勲 事業管理本部長、 コンプライアンスオフィサー、法務部長
社外取締役	利根忠博
社外取締役	大胡誠 弁護士
※菊池俊嗣氏、米谷正孝氏、洞秀明氏、利根忠博氏は、第8回定時株主総会をもって、取締役を退任する予定です。	
※中西孝裕氏は、第8回定時株主総会をもって、取締役を退任し、常勤監査役に就任する予定です。	
※第8回定時株主総会をもって、独立社外取締役として、稲葉利江子氏が就任する予定です。	
常勤監査役	下垣司郎
常勤監査役	田村依雄
社外監査役	有賀茂夫 税理士
社外監査役	飯島誠一 公認会計士
※下垣司郎氏、有賀茂夫氏、飯島誠一氏は、第8回定時株主総会をもって、監査役を退任する予定です。	
※第8回定時株主総会をもって、独立社外監査役として、新澤靖則氏、北村康央氏が就任する予定です。	

常務執行役員	菊池英次	北米地域本部長、JIC取締役社長、ATA取締役会長、G-TAC取締役会長、G-NAC取締役社長
上席執行役員	藤澤恭司	事業管理本部副本部長、経理部長、原価管理部長
執行役員	内山雅保	南米地域本部長、G-KTB取締役社長
執行役員	高山隆一	ATA取締役社長
執行役員	瀬古浩	技術本部長
執行役員	矢端志津男	品質保証本部長、購買部担当
執行役員	林政行	アジア地域本部長、G-TEC取締役社長、TGB取締役社長
執行役員	廣瀧文彦	営業本部長
執行役員	原栄光	技術本部副本部長、開発部長
執行役員	森下泰一郎	欧州地域本部長、G-TEM取締役社長
執行役員	柿崎明	技術本部副本部長
執行役員	水木尚樹	中国地域本部長、APAC董事長総経理
執行役員	藤井琢人	生産本部長、埼玉工場長、リスクマネジメントオフィサー
執行役員	植木恵一	SUBARU事業責任者、技術本部副本部長、生産本部副本部長

株式の状況 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数 100,000,000株
 発行済株式総数 43,931,260株
 株主数 9,732名

株式分布状況

大株主 (上位10名 敬称略)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
本田技研工業株式会社	13,035,098	30.04
菊池俊嗣	2,904,480	6.69
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR : FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND	2,850,000	6.57
TKホールディングス株式会社	2,194,344	5.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,013,717	4.64
株式会社ケー・ピー	1,480,800	3.41
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,294,080	2.98
高尾直宏	1,286,576	2.97
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	804,100	1.85
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	695,400	1.60

(注) 持株比率は、自己株式545,005株を控除して計算しております。

株主メモ	
事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL.0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)
公告の方法	当社の公告は、電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

「株主様アンケート」集計結果のご報告

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

前回実施させていただきましたアンケートに665枚(回収率10.0%)のご回答をいただきました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。

率直なご意見も頂戴し、今後の経営に役立ててまいりたいと考えております。

ここで、アンケート結果の一部をご紹介します。
 (調査期間 2018年11月30日～2019年1月11日)

株主様構成

「株主様アンケート」集計結果

当社株式保有にあたり最も望まれることをお聞かせください。

株主優待	39.1%
配当	30.3%
利益成長	27.0%
情報開示の充実	1.5%
個人投資家説明会	1.1%
その他	1.0%

当社株式の今後の保有方針をお聞かせください。

長期保有(5年以上)	61.5%
中期保有(2年～5年未満)	13.3%
買い増し	8.8%
短期保有(2年未満)	4.2%
売却済み	0.3%
未定	11.9%